

道の駅厳美溪で1歳児の歩き初め会
一升の餅を背負って一生懸命歩く

第16回「1歳児の歩き初め会」(美の郷主催)は3月4日、道の駅厳美溪で開かれました。一升餅を背負って一生懸命歩く子供たちの姿を、詰めかけた父母らが温かく見守りました。

同イベントは、満1歳児の健やかな成長を願う一関地方の伝統行事。今年は市内外から170組が参加しました。子供たちの中には餅の重さに耐えかねて転んだり、泣いたりする子も。めげずに歩く姿に、会場からは盛んな拍手が送られました。

山目から参加した藤野涼海ちゃん(1つ)の母、友美さんは、「しっかり歩いてくれてうれしかった。これからも、きょうだい仲良く成長してほしい」と目を細めていました。



無病息災や五穀豊穡の願いを込めて
長徳寺「蘇民祭」で裸男たちの争奪戦

長徳寺(藤沢町保呂羽・渋谷真之住職)の「蘇民祭」は3月5日に行われました。無病息災や五穀豊穡などの願いを込め、約50人の裸男たちが蘇民袋を奪い合いました。

雉子川で身を浄めた下帯姿の男たちは、点火された井桁状に積まれた焚場に登る「柴燈木登り」を披露。蘇民袋を奪い合ってその年の「取主」を決める「袋ねじり」では、男たちが折り重なるようにして激しい争奪戦を繰り広げました。

1時間にわたる白熱の争いを制した会員の鎌田貞幸さん(47・花巻市)は「初めての取主。とてもうれしい」と頬を紅潮させていました。



子供たちの笑顔あふれる演技が感動呼ぶ
恒例の「ファンタジックコンサート」開催

「ファンタジックコンサート9」(いちのせき キッズプロジェクト・サポーター主催)は2月26日、大東町摺沢の室蓬ホールで開かれ、子供たちの元気な演技が訪れた約300人の観客を魅了しました。

今年は市内外の2歳から高校生まで21人の子供たちが出演。サクソ奏者グループ「サクソフォビア」とバンドグループ「スプライト」の軽快な演奏に合わせ、25曲を披露しました。

出演した菅原涼葉さん(一関一高1年)は「小さい子供たちと楽しく歌えた」とにっこり。演出の千葉久恵さんは「子供たちの演技は満点です」と充実した表情で話してくれました。

郷土芸能の競演に観客から盛んな拍手
文化センターで一関民俗芸能祭

第32回「一関民俗芸能祭」は3月12日、一関文化センターで行われ、一関地方に伝わる郷土芸能の競演に観客から盛んな拍手が送られました。

今年は、南部神楽、田植え踊りや鹿躍りなどを舞う11団体が勢ぞろい。今回が初参加となる厳美中学校1、2年生の有志は、1月下旬から練習を重ねた鶏舞を披露しました。躍動感のある息の合った舞いに、会場からは大きな声援が送られました。

同中2年の伊藤みのりさんは「達古袋神楽の指導を受けながら練習しました。今日は100パーセントの出来。達成感でいっぱいです」と充実した表情で話してくれました。



千厩町にまつわる伝承を創作劇に
心揺さぶる演技で観客を魅了

第14回どっから座公演「いにしへの学び舎 ばあひところ」(同実行委主催)は3月12日、千厩農村環境改善センターで上演されました。

今から1200年前、千厩町北ノ沢に実在したといわれる花嫁学校「姥懐」が舞台。そこで娘たちに教えを説く「おば様」と、彼女を慕う村人たちが繰り広げる感動の物語です。

カーテンコールでは、キャストをはじめ、大道具や衣装などの裏方スタッフも登場。地域住民ら50人が一丸となって作り上げたステージに、会場からは大きな拍手が送られていました。



藤沢町新沼に伝わる感動の物語
懸命に生きる村人を市民17人が熱演

第18回一関藤沢市民劇場「新沼物語『雨の記憶』」(同実行委主催)は2月26日、藤沢文化センター「縄文ホール」で上演されました。

「雨の記憶」は新沼の地名に由来する昔話をもとにした創作劇です。稲作のためにため池を掘り続ける若者や、貧しさにあえぎながらも懸命に生きる村人の姿を17人の市民が熱演。カーテンコールでは、心を込めた演技に観客から惜しみない拍手が送られました。

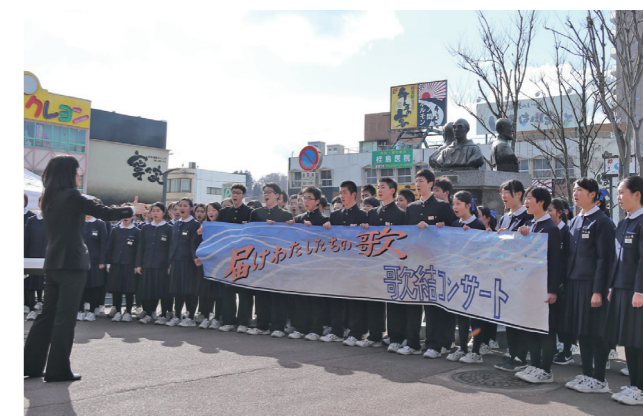
観劇した新沼の三浦潤子さん(43)は「地域について知る機会を持てるのが藤沢市民劇場の魅力」と話してくれました。



希望のともしびに願いを託して
夢あかりで東日本大震災の犠牲者を追悼

「追悼夢あかり一関」(同実行委主催)は3月11日、市役所前広場で行われ、約200人が東日本大震災の犠牲者の鎮魂と被災地復興を祈りました。参加者は阪神・淡路大震災で被災した神戸市の「神戸希望の灯り」を「3.11」の形に並べた夢あかりに点灯。メッセージが書かれた約500個の夢あかりに、追悼と被災地復興への願いを託しました。

震災が発生した14時46分に全員で黙とうを行ったあと、一関修紅高の音楽部員らが合唱などを披露。部長の佐藤優光さん(2年)は「心をつなげて、被災した人々への追悼の気持ちを込めて歌いました」と話してくれました。



被災地の復興と犠牲者の鎮魂願い
一関中特設合唱部が一関駅でコンサート

東日本大震災から6年目となる3月11日、一関中学校(佐藤邦男校長、生徒260人)の特設合唱部は「届けわたしたちの歌 歌結コンサート」をJR一関駅西口の駅前広場で開催しました。被災地の復興と犠牲者の鎮魂を願う生徒たちの歌声が、青空の下に響き渡りました。

同コンサートは今年で3回目、校外での開催は初。福島県相馬市の中学校の卒業生と音楽教諭が作った「群青」など6曲を披露しました。部長の小山ななみさん(2年)は「今でも仮設住宅で苦しんでいる人がいる。私たちの歌で被災した人を勇気づけたい」と力強く語りました。